

## 『私を創ってくれた3つの作品』

スペースデザイン部会員 山口 和加子

私の作品は、素材に和紙をつかって、デザインのイメージに沿って、いろいろな表現方法を使っています。

1人で作品を作っていた頃の作品、吉田淳子さんと共同制作で作品を出品した頃の作品、新制作会員になってからの最近の作品と、それぞれの時代から、3つの作品を選びました。

### 【作品 1】



『群青』

1985年 新制作展出品

W150×H250×D6

新制作展に最初に出品し、入選した作品です。大学時代からずっと織物制作を続けていましたが、糸だけではなく、いろいろな素材を使う事に挑戦する時期があり、その過程で、和紙に出会いました。薄い和紙を織り込んでマフラーを織ったりしましたが、織機にこだわらず、和紙をつかって作品を自由に作り始めた時の最初の作品で、指示していた先生に新制作に出してみたらと言われ、初めて出品しました。新制作協会との出会いの作品で、今の私の原点の作品です。自由に形を作れる和紙に魅了され、現在に至るまで長い間、制作し続けています。

## 【作品 2】



『wave-朝焼け』

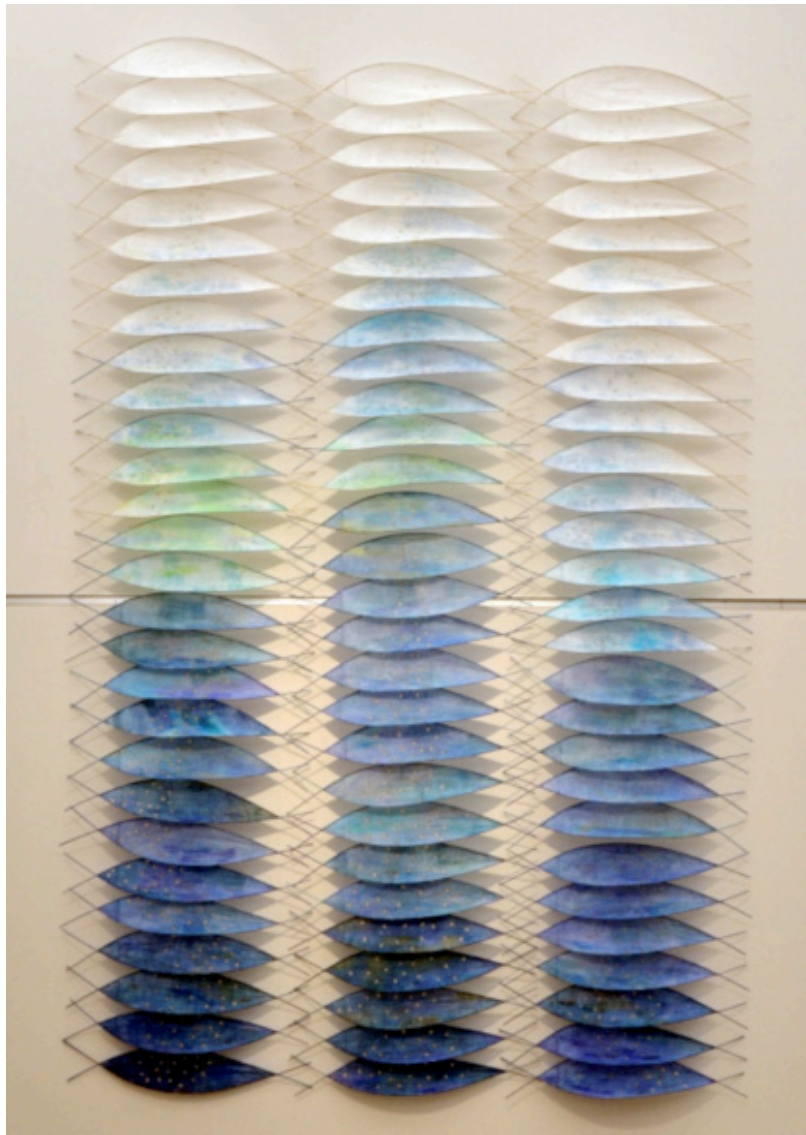
1994年 山口和加子 吉田淳子共同制作  
W5000×H1450×D170 麻布美術工芸館



作品ディテール

吉田淳子さんと共同制作で、1993年から新制作展に出品しました。この作品は、2人で作品を作り始めて初期の頃の作風で、紙バンドに染色した和紙を貼り、組んだりして構成しています。この頃は、箔も使っていました。2人で作っていたので、まず、自然の風景や景色の写真などからイメージを取り、デザインを話し合い、パーツをそれぞれで作ってきて、合わせるようにしていました。共同制作で、何作も出品したのは、私達だけだったので、いろいろご意見も頂きましたが、感性が似ているのか、ぶつかることもなく制作することができたと思っています。

### 【作品3】



『波のように』  
2015年 新制作展出品  
W230×H360×D8

新制作の会員になってから、吉田さんとの共同制作は、2人の住まいが遠いことから時間を合わせて一緒に制作することが難しくなってきました。そのため、1人で作り始めて、素材は和紙やその他の紙やアルミなど、作品によって自由に選んでいます。

この作品は、波がはじけた時の水の透明感を表現したくて、薄紙を使いました。2本の竹ひごを組んで、薄和紙は、染めてからこんにゃくのりで強度を付けて、竹ひごのベースに貼っていきます。のりが乾いた時に計算できないそりが生まれます。それを重ねていくと空間ができ、そこに空気感も生まれました。その後、変化を楽しみながら、この技法で何作か創りました。

私の作品は、1つの単位をいくつか重ねて、表現することが多いと思います。

これからも、表現方法にこだわらず、いろいろな素材と組み合わせて、作品を作り続けていきたいと思っています。



東京生まれ

共立女子大学 生活美術学科卒業

- 1982年 グループハンク  
(松屋銀座クラフトギャラリー)  
(1982年～1992年)
- 1985年 新制作展初出品 (1987年)
- 1986年 ドイツ JUGEND JUSTALER 展入賞
- 1990年 山口和加子・吉田淳子展  
(ワコールアートスペース)  
(1996・1990・2001・2005年)
- 1993年～ 新制作展出品  
(山口和加子・吉田淳子共同制作)  
(1995年 新作家賞受賞)
- 1998年 素材を追って - 繊維によるころみ  
(世田谷美術ギャラリー)  
ORIE 現代アート 100 (草月ギャラリー)
- 2000年 新進作家タペストリー 6人展  
(ORIE ギャラリー)
- 2005年 TEXTILE 05 KAUNAS ART BIENNIAL  
(リトアニア)
- 2006年 素材との出会い -5人展  
(銀座画廊るたん・益子 kyouhansix galley)
- 2008年 ミニアートテキスタイルコモ (イタリア)
- 2011年 グループ展 ファイバーの世界で  
(千疋屋ギャラリー)
- 2014年 グループ展 Reconsider (いりや画廊)  
(2016・2018・2020年)

新制作協会会員